

大磯駅前広場

に関する説明会



町では、平成29年度に、アンケート調査により町民等の意見を伺いながら、駅前広場の概略計画図(案)を作成するなど、利用する皆さんに安全な駅前広場の再整備について検討してきました。

今年度は、町民等のご意見や一般車の利便性などを考慮したうえで、概略計画図(案)の修正作業を予定していますが、それに先立ち、平成29年度に整理・検討した駅前広場の現状の課題などについて、町民等の皆さんにご理解いただくため、説明会を開催します。

▼とき 9月23日(月・祝)
①10時 ②14時(各回2時間程度)

▼ところ ①国府小学校体育館
②大磯小学校体育館

▼内容 駅前広場の課題などの説明

※各回とも同じ内容です。

▼その他
・平成29年度検討内容は、「大磯駅周辺安全安心・にぎわい創出計画(案)」としてまとめ、町ホームページ及び都市計画課窓口にて公開しています。

問 都市計画課 ☎内線243

まちづくり基本計画 ワークショップ参加者募集

町では、「豊かな自然に歴史・文化が薫りほつとする素敵なまち大磯」を基本理念として、まちづくり基本計画を策定し、大磯らしいまちづくりを進めています。

今後の大磯町を考え、未来の大磯町に向けて、皆さんが取り組めること、行政が取り組めることをワークショップで一緒に考えていきましょう。

▼とき 10月14日(月・祝)、11月2日(土)、30日(土)、12月21日(土)の全4回(各回2

問 都市計画課 ☎内線239
✉ foshi-kei@town.oiso.kanagawa.jp

大磯港港湾管理事務所を 改修します

工事期間は、10月以降を予定しており、工事期間中の事務所機能については、仮設事務所を設け、大磯港の管理運営を行います。

ご迷惑をお掛けしますが、ご協力をお願いします。

○仮設事務所の住所

大磯町大磯1023

問 産業観光課 ☎(61) 5719

イノシシ・シカを増やさない・寄せ付けない地域づくり エサとなる青草の管理編

①冬に生えている青草はイノシシ・シカを増やす大きな原因

イノシシやシカにとってエサが少なくなる冬が生死を分ける正念場です。エサを確保できなければ餓死して、個体数が極端に増えることはありません。

しかし近年では、冬を乗り切れるほどのエサが大量に存在します。その一つが農地や道の土手などに生えている柔らかい雑草です。ちなみに、シカが草食なのはよく知られていますが、イノシシも植物の葉や根などをよく食べます。

②「熱心な草刈り」が冬の青草を作っている!?

冬に土手を見ると、チガヤやススキの枯れ草に覆われた茶色い土手がある一方で、草が生えている緑色の土手も見られます。この差は、草を刈る時期の違いによって生じます。

10月に草を刈ると、その後、寒さに弱いチガヤなどは成長できず、寒さに強いタンポポ、クローバー、ホトケノザなどが生えてきます。一方、10月に草を刈らないと、そのまま枯れたチガヤなどが土手を覆うため、後から他の草が生えにくくなり、イノシシ・シカにとって冬の魅力的なエサ場にはなりません。

③秋の草刈りは9月上旬まで

冬にタンポポなどが生えた土手は、同時にセイタカアワダチソウなど背の高い草も生えてくるので、どうしても3月には草刈りが必要になります。イノシシ・シカが身を隠せるほどに草が伸びてしまうと動物を寄せ付けてしまいます。一方、チガヤなどで青草が抑えられた土手は、4月下旬頃まで草を刈らなくても春草が繁茂しないため、土手の管理が楽になります。動物の潜み場にもせず、冬の

エサも作らないようにするには、草刈りは9月上旬までに済ませ、その後は4月下旬、あとは梅雨の雑草の最盛期に実施するというサイクルが、回数も減らせてベストといえます。



2月の雑草の様子。手前が青草、奥が放棄地の潜み場、その間がチガヤでエサや潜み場にならない状態。草刈り時期によって違いが生じている。

問 産業観光課 ☎内線262